

4 実践

2年生の生活科には、野菜の栽培を通して、生長の変化や育て方に気づき、草花への親しみや世話をする楽しさ・喜びを味わうことを目標とした活動が設定されている。1年生で行ったあさがおの栽培からつながる栽培活動である。育てたい野菜を選ぶところからスタートし、それぞれの野菜の世話や収穫と同時に、生長の様子を観察しカードに記録する活動も継続していく。長い期間にわたる継続した活動であるので、活動を始める最初の思い、収穫の喜びや活動をやり終えた達成感を感じることができるよう、夏野菜と冬野菜、年2回の栽培活動を1枚のカードの中で振り返ることができるように、野菜の生長と同様に自分の成長も実感できるようになどの思いを持って、1枚ポートフォリオも併用していくことを考えた。

《実践の内容》

2学年 生活科授業案

授業者 清水 利子

1. 単元名 おひさま もりもり まるかじり（やさいのさいばいものがたり）

2. 単元について

子どもたちは、1年生の時にあさがおやさつまいもなどの栽培を通して、それらが育っていく様子や変化を観察したり、生長に応じた世話の仕方を工夫したりすることを学習してきている。自分のあさがおやさつまいもを長い期間継続して、世話をしたり観察をしたりして大切に育ててきている。土を持ち上げるようにして出てきた芽、かわいらしく開いたふた葉、日に日に伸びていくあさがおの葉やつる、大きく開いたあさがおの花に喜び、一粒の種から生まれたたくさんの同じ種に生命を実感し、取った種を宝物のように大切にさせていただこうと思う。植物と関わることを楽しみ、愛着を持って大切に育て上げ満足感を持つことができたのではないかと思う。また、秋には育てたさつまいもを収穫し、みんなで喜ぶという体験もしてきている。

本単元は、小学校学習指導要領生活の内容（7）（8）に基づいて設定した。1年生で体験した花の栽培から発展させ、収穫という目標を持って野菜の世話や観察をする活動を通して、野菜を育てる活動の楽しさを味わうとともに、生長を願い、収穫の喜びを実感できるようにしたい。そのなかで、日々変化していく野菜の生長やその生長に合わせた世話があることに気づき、周りの人々とかわりながら、野菜に親しみを持ち、継続して楽しく栽培活動が進められるようにしたい。

植物を育てる活動は、長期にわたる継続活動となるので、育てる野菜は自分たちで選択し、世話の仕方を調べ、収穫後の利用方法を考えるという見通しを持った主体的な活動によって、意欲を継続・発展させていくようにしたい。また、生長の節々で、世話や観察、表現活動を続けていく場を設定し、活動の中では、自分や友達が育てている野菜がどんな状態なのか、どんな世話が必要でどんなやり方がよいのか情報交換し、意欲を高めたり、自分の関わり方を振り返ったりする場としていきたい。虫食い・病気・生育不良などの問題についても、本を調べたり、人に聞いたりしながら解決に向けて話し合う場を設定したい。また、育てる野菜を決め、育て方を調べるところから、苗植え・種まき、野菜の生長に合わせた世話、収穫に至るまで、おうちの方（祖父母のみなさん）や先生方など多くの方に教えてもらいながら活動を進めていきたい。それらの方にも野菜の生長の様子

を知らせたりしながら、できるだけたくさんの人と関わりを持ちながら意欲の持続を図るとともに、ともに収穫の喜びを分かち合えるように工夫していきたい。収穫の喜びをみんなで分かち合う時間を設定することで、達成感を味わい、活動の価値を確かなものにしたい。

小学校学習指導要領生活科の内容

- (7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や生長の様子に関心を持ち、また、それらは生命を持っていることに気づき、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようになる。
 - (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさがわかり、すすんで交流することができるようにする。
-

1 枚ポートフォリオ活用の視点

生活科における1枚ポートフォリオは、「直接的な活動や体験」を「気づき」の質的な高まりにつなげる役割を果たすものと考えている。本単元における「直接的な活動や体験」は、自分で選んだ野菜を育てることであり、観察を続けながら必要な世話を続けることである。「気づき」の質的な高まりというのは、児童が次の活動をするのに役立てたり、生かしたりできる気づきであり、将来における科学的な思考や認識、合理的な判断、道徳的な判断などの基礎となるものである。

本単元の栽培活動は、夏野菜の栽培のあと、その体験を生かして、冬野菜の栽培を行うという繰り返しの単元構成になっている。そこで、1枚ポートフォリオについても、2回の活動を1枚に記録する構成とした。一夏野菜の栽培活動における成功体験や失敗体験が冬野菜での栽培活動に行かされる。夏野菜での失敗を冬野菜で再チャレンジする意欲につながる。季節によって育つ野菜に違いがあることに気づくことができる。長期間にわたる継続した栽培活動をやり遂げた達成感や成就感、がんばった自分への自己肯定感が味わえる。一などをねらったものである。2回の栽培活動を通しての思いや気づきをまとめ、家庭からの励ましや評価をいただいて1年間の栽培活動が達成感を持って振り返ることができるように考えた。

なお、栽培活動にとってポイントになる常時活動としての観察は「お知らせカード」を用いる。家庭に協力をお願いしながら、観察したことを家庭に知らせ、お返事をもらうという活動を継続していきたい。お知らせカードの内容は、栽培活動や生長の様子が中心になるが、虫がついたなど栽培過程で困ったことも知らせるようにさせる。家庭からは、励ましの言葉やアドバイスなどの返事をいただけるようお願いをする。1枚ポートフォリオには、種まき・苗植え、世話や観察、収穫などポイントを決めて記入させるが、その際には、お知らせカードや記録写真をもとに振り返るようにする。

3. 児童の実態

男子7名、女子16名 計23名の学級である。明るく、学習に対しても意欲的な児童が多い。特に、生活科のように具体的な活動や体験を伴う学習を好み、生活科の時間を楽しみにしている。

2年生の生活科では、本単元の学習と並行して「町探検」の学習を行ってきた。「町探検」では、グループごとに2、3カ所ずつの探検場所を決め、地域の自然や人々と関わりながら様々な発見や出会いの楽しさを味わうことができた。道路わきの川や八幡神社の池などで、カニやザリガニなど、生きものとの関わりを楽しむグループもあった。

八幡小は、果樹地帯ではあるが、多くの家庭で野菜も作っており、児童は、家の畑や登下校の道でも野菜を育てている様子を目にしており、多少なりとも野菜作りを経験している。それらの経験も思い出しながら、野菜が育つために必要なものとして、土、水、肥料、日光をあげている。また、知っている野菜の世話としては、観察・水やり・草取りをはじめ、肥料をやる・消毒をする・支柱をたてるなどがあげられた。さらに、野菜を収穫したら、友だちや家族などみんなで味わいたいと思っている児童が多い。

4. 単元の目標

◎育ててみたい野菜の栽培を通して、生長の様子、野菜の育て方や育てるための工夫などに気付くとともに、生長の様子に関心を持ったり親しみを感じたりしながら、世話をする楽しさや収穫の喜びを味わう。

【生活への関心・意欲・態度】

・野菜をそだてる楽しさを知り、収穫への期待を抱きながら世話や観察をしようとする。

【活動や体験についての思考・表現】

・野菜の世話の仕方を調べたり、地域の人に聞いたりして、工夫しながら育てることができる。

・野菜の栽培を通しての気づきや驚き、楽しさ、収穫の喜びなどを自分なりに表現することができる。

【身近な環境や自分についての気づき】

・野菜も生命を持って生長・変化していることに気づき、その生長に合わせた世話の仕方があることに気づく。

5. 単元の評価規準

	ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気づき
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 自分が育てたい野菜を決め種まき・苗の植え付けなどをしようとする。 野菜の生長の様子に関心を持ち、水やりなどの世話を進んでしようとする。 野菜の生長を楽しみにしながら、親しみを持って大切に育てようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 種まき・苗の植え付け、野菜の生長に合わせた適切な世話などを、調べたり人に聞いたりしながら、工夫して行うことができる。 野菜の変化や生長の様子など気づいたことや感じたことをカードなどで表現することができる。 野菜を育てたことを振り返り新聞や紙芝居など、自分がえらんだ方法で表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が育てている野菜の変化や生長の様子に気づき、適切な世話のしかたがわかっている。 野菜の世話をしたり、生長の様子を振り返ったりする中で野菜と関わるのがすきになったり、育てることが上手になったりしている自分に気づいている。 野菜にも生命があるということに気づいている。
小単元	①栽培できる野菜を進んで調べたり聞いたりして育てたい野菜を決め、意欲を持つ	①育てることが可能な野菜の中から、自分が育てたい野菜を決め、植え付け方や育て方	①野菜によって植える時期が違うことや適した世話の仕方があることに気づいている。

<p>における具体的な評価規準</p>	<p>て種まきや苗植えをしようとしている。</p> <p>②育てている野菜の変化や生長を楽しみにしながら、継続して野菜の世話をしようとしている。</p> <p>③育ててきた野菜の生長を喜び、大切に収穫し、友達や家族と一緒に味わおうとしている。</p> <p>④夏野菜の栽培経験を生かして、野菜の変化や生長を楽しみにしながら、継続して世話をしようとしている。</p> <p>⑤育ててきた野菜を収穫する喜びを友だちといっしょに味わおうとしている。</p>	<p>など世話の仕方を調べることができる。</p> <p>②変化や生長の様子に合わせて、適切な世話の仕方を工夫したり、生長や変化の様子を自分なりの方法で表現したりすることができる。</p> <p>③野菜の生長の様子や収穫の喜びを自分なりの方法で表現したり、お世話になった人へ感謝の気持ちを持ったり伝えたりすることができる。</p> <p>④野菜の生長を観察しながら、適切な世話の仕方を考えたり、生長や変化の様子を表現することができる。</p> <p>⑤育ててきた野菜の収穫の喜びや野菜を育てることの楽しさを表現することができる。</p>	<p>②発芽、開花など野菜の変化や生長の様子に気づいている。</p> <p>③野菜を育てることができた満足感、達成感を味わい、上手に世話ができるようになった自分に気づいている。</p> <p>④野菜の変化や生長の様子、野菜を育てるための適切な世話の仕方に気づいている。</p> <p>⑤栽培活動を振り返り、野菜の生長に必要な世話がわかり、野菜も自分たちと同じように生命を持っていることに気づいている。</p>
---------------------	---	--	--

6. 単元の活動計画（全23時間）

<p>小単元の目標と主な学習活動</p> <p>◎目標 ○学習活動</p>	<p>評価規準</p>	<p>活動への配慮 (指導と評価)</p>
<p>小単元① なにをそだてようかな（3）</p>		
<p>◎育てることが可能な野菜の中から、自分が育てたい野菜を決め、意欲を持って種まきや苗植えができる。</p> <p>○育てたい野菜について話し合う。</p> <p>○育てたい野菜について、植え付け方や育て方などを家の人に聞いたり、本などで調べたりする。</p> <p>○野菜先生に植え方やまき方を聞きながら、種まき・苗植えをする。</p>	<p>アー①</p> <p>イー①</p> <p>ウー①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が育てたい野菜の中で、今から育てられる野菜（夏野菜）は何かを調べさせる。野菜によりまく（植える）時期があることに気付かせる。 ・育てたい野菜ごとにグループを作り、調べてきたことを発表し合って、育て方を確認させる。 ・栽培活動への協力をお願いし、子どもたちと活動してくれる祖父母のボランティアを募る。 ・地域の人と親しく関わりながら活動できるように配慮する。
<p>小単元② せわをつづけよう（5）＋常時活動</p> <p>※常時活動：時数には含まないが、登校後、朝の時間などで水やりや草取りなどの世話を行う</p>		
<p>◎育てている野菜の世話や観察を継続し、野菜</p>		

<p>の変化や生長に気付くことができる。</p> <p>○生長の様子を観察し、野菜の生長や野菜の特性に合わせた世話をする。</p> <p>水やり 草取り 移植 間引き 支柱立て わき芽かき わらを敷く 追肥など</p> <p>○育てている野菜の様子や気づいたことをみんなに伝える。</p> <p>○世話の仕方分からないことがあれば、質問したり調べたりする。</p>	<p>アー② イー② ウー②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の生長や変化の様子を継続して観察・記録させるとともに、野菜へのそのときそのときの思いも大切に記録させる。 ・生長や世話の様子を、「お知らせカード」に観察・記録させ、家庭に持ち帰るようにする。児童の活動の様子を知らせるとともに、家庭からの励ましやアドバイスをお願いし、児童の意欲につながるようにする。お返事をいただいた後、友だちのものが見られるように掲示しておく。 ・水やり、草取り、観察など常時活動の様子を見取り、がんばりを認めたり、支援したりする。
--	----------------------------	--

小単元③ やさいができた（５）

<p>◎大きく育った野菜の様子を確かめたり、収穫期のきた野菜を取り入れたりして、育ててきた野菜を収穫する喜びを友達や家族と一緒に味わうことができる。</p> <p>◎夏野菜の世話や生長について思ったことやわかったことをまとめたり、世話をした喜びに気付くことができる。</p> <p>○育てた野菜を収穫する。</p> <p>○学校や家で調理して食べる。</p> <p>○収穫した野菜や食べた感想などをみんなに知らせる。</p> <p>○野菜作りの写真やこれまで書いたお知らせカードなどをもとに、夏野菜の栽培について振り返る。（本時）</p> <p>○畑を整理する。</p>	<p>アー③ イー③ ウー③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫できる順に、家に持ち帰ったり、学校でみなと味わったりする。 ・家庭からのお知らせや感想は、全体に伝えていく。 ・「収穫したよ」カードを書き、発表させたり掲示したりして、ともに収穫の喜びが味わえるようにする。 ・栽培の様子や収穫の喜びとともに、栽培できた自分のがんばりに気付いていない児童には、コメントして、がんばりを認める。
---	--------------------------------------	--

小単元④ こんどは、ふゆやさい（５）＋常時活動

<p>◎夏野菜の栽培経験を生かして、冬野菜の中から育てたい野菜を決め、継続して世話や観察をすることができる。</p>		
--	--	--

<p>○冬野菜について話し合い，家の人に聞いたり本で調べたりする。</p> <p>○育てたい野菜を決めて，育て方を調べる。</p> <p>○土作りをして種まきや苗の植え付けをする。</p> <p>○水やりや草取りなど野菜の生長に合わせた世話をしたり，生長の様子を観察したりする。</p> <p>○育てている野菜の生長の様子や世話について話し合い，交流する。</p>	<p>アー④</p> <p>イー④</p> <p>ウー④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今から育てられる野菜（冬野菜）は何かを調べさせる。 ・調べ学習で、「野菜を育てよう」カードに記入させる。 ・前回と同様に，祖父母のボランティアをお願いし，親しく関わりが持てるようにする。 ・前回と同様に，生長や世話の様子を，「お知らせカード」に観察・記録させ，家庭に持ち帰るようにする。お返事をいただいた後，友だちのものが見られるように掲示しておく。 ・育てている野菜の生長や変化の様子を知らせたり，必要な世話について話し合ったりさせる。
<p>小単元⑤さあ!しゅうかくだ(4)</p>		
<p>☆育ててきた野菜を収穫し，栽培活動を振り返り，野菜も自分たちと同じように生長していることや，収穫まで育ててきた達成感に気付く。</p> <p>○育てた野菜を収穫する。</p> <p>○収穫した野菜をどうするか話し合う。</p> <p>○収穫した野菜を調理して味わう。</p> <p>○みんなで育てた野菜作りの思い出を残す。</p>	<p>アー⑤</p> <p>イー⑤</p> <p>ウー⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫が先の野菜は，継続して世話や観察を続けさせる。 ・おいしく食べたいという願いを大切に，レシピを調べたり教わってきたりさせる。 ・収穫を喜び，食に感謝する気持ちを持たせる。 ・1年間の栽培活動を振り返らせ，愛情を込めて世話したことや，野菜も自分たちと同じように生命を持っていることを実感させる。

7. 本時の学習

(1) 日時 平成26年8月29日(金) 5校時(2:00~2:45)

(2) 場所 八幡小学校 2年教室

(3) 本時の活動

育ててきた野菜の生長の様子や世話について振り返り，気づきや思いを伝え合う。

(4) 本時の目標

【生活への関心・意欲・態度】

- ・自分がしてきた野菜の世話と生長を振り返り，思いを伝えようとする。

【活動や体験について思考・判断】

- ・栽培活動での気づき・思い・感謝の気持ちなどを伝えることができる。

【身近な環境や自分への気づき】

- ・野菜の世話の仕方や生長の様子、世話をして育ててきた喜びに気付く。

※本時展開は 13 ページに掲載

8. 授業後の研究討議

○野菜の成長の様子や児童の活動の様子を記録した写真を使ってパワーポイントを作成した。夏休みをはさんで、夏野菜の栽培を振り返る本時の導入として効果的だった。

○パワーポイントを見ながらのつぶやきが多く、友だちの栽培活動についても解り合っていて、野菜の生長のポイントをおさえた児童のつぶやきのなかで、友だちどうしの交流も図れていた。また、つぶやきを共感的に受け止める教師の姿勢もよかった。

○栽培活動の振り返りの中で、児童から「土づくり」が出てきたところに驚いた。パワーポイントでの振り返りの効果かもしれない。（写真の中に、ボランティアの祖父母が有機肥料をまき耕す場面があった。）

○日常の観察カードをつなげて1つの綴りとして手元にあることで、生長や世話の過程を思考するときに有効だった。これもポートフォリオとすることができ、「なりきりカード」に書くとき、観察カードを見直して、自分の世話や観察のなかでの気づきを思い出した児童もいた。また、観察カードを「お知らせカード」として、家庭からの返事をもらう形にしていることも、児童の励みややる気につながっていると思う。

○「きゅうりのはっぱがふわふわしていた。」という発言に対して、「ぼくは、ざらざらしていると思った。」「あれは、毛が生えているんだよ。」など、自分の感じ方や考えをつぶやいている児童もいて、交流の中で、より知的な気づきに高まった場面だったと言える。

○夏野菜の栽培活動の振り返りを交流する場面で、発言の内容を「うれしかったこと」「くろうしたこと（がんばったこと、むずかしかったこと）」「大はっけん！（おどろいたこと、はじめて知ったこと）」の視点で分類しながら、板書したことにより、友だちの発言に興味を持って聞くことができた。また、「なりきりカード」（育てた野菜の立場から、自分のしてきた世話や観察のなかでの気づき等を振り返り、栽培活動をやり遂げた達成感や自己肯定感を味わう）により、自分の行為や気づきを客観的に見ることもできた。全体と個の両方で、よい振り返りができた。

○児童の豊かな表現がたくさん見られた。感じたことをこういうふうに言葉にして表現するんだということがよく伝わった。活動を通して、多くのことに気づけていることを感じた。

- ・「なりきりカード」の活用はよい手法だと思うが、本時の授業の中で児童から出たつぶやきや発言とその時どきの感動が詰まっている観察カードとを意識させ振り返らせることで、カードの内容もより質的に高まったものになったと思う。

9、冬野菜の栽培

研究授業で夏野菜の栽培について振り返ったあと、冬野菜の栽培をスタートさせた。

秋にまく（植える）野菜にはどんなものがあるか話し合い、育て方を家の人に聞き（本やネットで調べ）、育てる野菜を決定した。夏野菜のときと同様に、祖父母のボランティアを募ったところ、2名のご協力をいただくことができたので、9月19日に、白菜、キャベツの苗植えと大根、カブ、ニンジン、小松菜、三つ葉、ほうれん草の種まきを行った。いちごも育てたいという声が多かったので、あさがおの鉢を使い、一人一鉢の栽培も予定している。

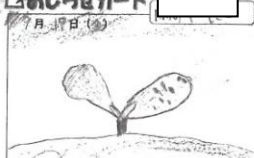
育てる野菜を決定する際には、夏野菜のときうまくいかなかった大根やカブに再挑戦したり、育てるのは難しいといわれるニンジンに挑戦したりと、それぞれの思いを持って選ぶことができた。運動会の練習がありあわただしい日程の中でも、毎朝の水やりを進んで行き、観察にも意欲的に取り組んでいるところである。

みんなのなれ

八幡小学校 2年通信
2014, 9, 22
No.30

お知らせカード

9月19日(金)




はやくのなえをうえました。
おばあちゃんに手伝ってもらって
お水をあげました。
お水をいれあげてお水を
あげました。

おへんじくるかも...

お知らせカード

9月19日(金)

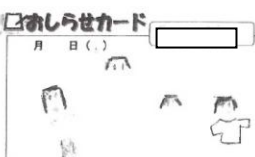


おばあちゃんに手伝ってもらって
お水をあげました。
お水をいれあげてお水を
あげました。

おへんじくるかも...

お知らせカード

9月19日(金)

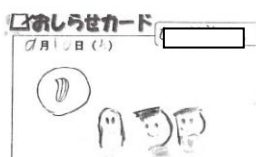


おばあちゃんに手伝ってもらって
お水をあげました。
お水をいれあげてお水を
あげました。

おへんじくるかも...

お知らせカード

9月19日(金)



おばあちゃんに手伝ってもらって
お水をあげました。
お水をいれあげてお水を
あげました。

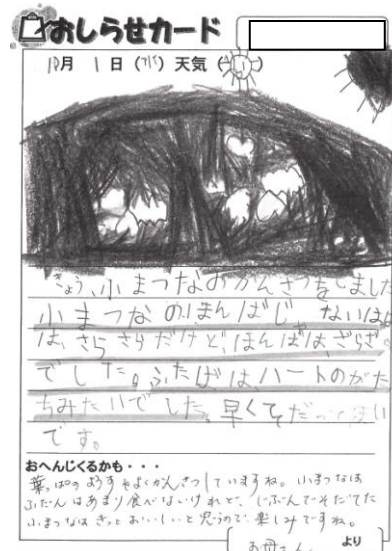
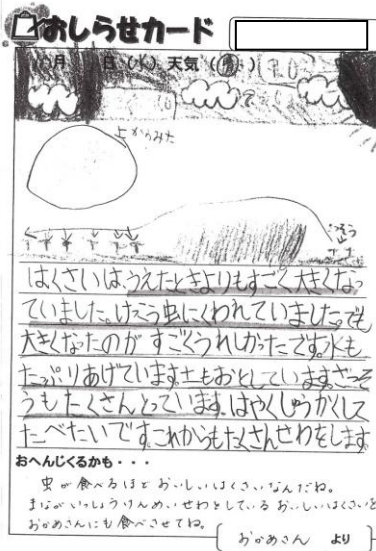
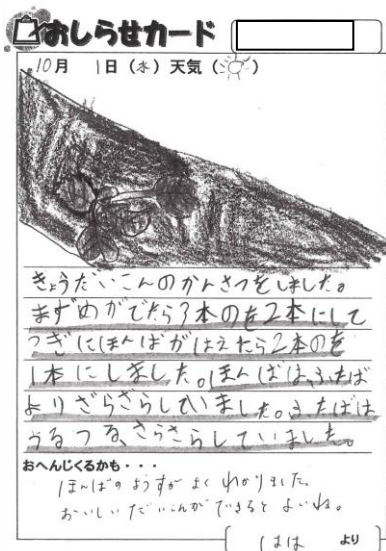
おへんじくるかも...

冬野菜の種まき・苗うえをしました

9/19(金)5.6校時、冬野菜の種まきと苗うえをしました。今回も、急なお願にもかかわらず、[]さんのおばあちゃん、[]さんのおばあちゃんが来てくださいました。大根、にんじん、ほうれん草、小松菜、かぶ、三つ葉などたくさん種まきと白菜・キャベツの苗植えを手際よく指導いただきました。最後に、世話の仕方をやさしく教えていただき、予定通りに終えることができました。本当にありがとうございました。

これからまた、がんばってお世話をしていきます。時々観察をしながら、おうちのほうにもお知らせカードを持たせますので、野菜の生長の様子やがんばって世話をしているお子さんのがんばりなどお話を聞いてあげてください。





《まとめ》

成果と課題（1枚ポートフォリオの活用に関わって）

○夏野菜の栽培は1学期いっぱい、冬野菜の栽培は2学期いっぱいという長い取り組みになるが、1枚ポートフォリオを活用することにより、単に観察カードを用いて観察を続けるよりも、栽培活動の見通しを持つことができ、野菜に対する興味や栽培への意欲も継続できる。

○観察カードに記録したそれぞれの思いや気づきを、「育てる野菜を決めるとき」「種まき・苗植え」「世話や観察」「収穫」という視点を持たせ1枚ポートフォリオに記録させることで、栽培活動の過程を意識した気づきを残すことができる。

○1枚ポートフォリオの活用も含めた単元全体の活動を通して、自分の野菜への愛着が深まり、最後まで大切に育てることができる。活動の振り返りや友だちとの学び合いを通して、自分の成長や命のつながりというところまで考えさせることができる。

○夏野菜の栽培を上段、冬野菜の栽培を下段に記入し、栽培の過程が矢印で示されているので、夏野菜の栽培が、冬野菜の栽培に生かされる構成になっている。PDCAサイクルが2回繰り返されることになり、見通しを持った活動の手助けになる。

○書くことに苦手意識が出始めたり、形式的な表現になってしまったりするなど課題も見られるが、意図的に継続して取り組ませることで、個性的な表現や気づきの質の高まりを感じられる表現も多く見られるようになってくる。書くことが中心になる1枚ポートフォリオ活用のメリットといえる。合わせて、友だちの気づきや表現のよさに気づかせるための交流（発表し合う、読み合うなど）も大切である。

- ・児童のつぶやきや行動観察、観察カード（お知らせカード）と併用して、個々の気づきや思いをみとるための手立てとして活用できるが、1枚で評価できる（少ない労力で効果的に評価）という1枚ポートフォリオのよさを可能にするには、どういう形が望ましいかさらに検討を加える必要がある。
- ・1枚ポートフォリオと観察カード（お知らせカード）、それぞれに目的はあるが、観察カードを見るときに児童の表情は、大切なものを見つけたときのような輝きを持っていた。この観察カードの綴りを1枚ポートフォリオとして直接評価に活用することを考えてもよい。